

第3期 松江市スポーツ推進計画

2025（令和7）年3月

松江市

目次

1. 第3期松江市スポーツ推進計画の策定にあたって	1
(1) 趣旨	1
(2) 計画の位置づけ	2
(3) 計画期間	2
(4) 本計画とSDGsの関係	2
(5) 進捗管理・見直し	2
2. 計画策定にあたっての松江市の現状と課題	3
(1) 第2期松江市スポーツ推進計画の検証	3
(2) 市民アンケートから見える現状と課題	6
(3) 島根かみあり国スポ・全スポへの対応	7
3. 計画の基本的な考え方	8
(1) 基本理念	8
(2) 基本目標	8
(3) 重点施策	9
(4) 重要成果指標	9
(5) 計画のイメージ図	10
4. 計画推進のための取組	11
① スポーツによる「ひとづくり」	12
② スポーツによる「つながりづくり」	13
③ スポーツによる「なかまづくり」	14
④ スポーツによる「しごとづくり」	15
⑤ スポーツの「どだいづくり」	16
資料編	17

1. 第3期松江市スポーツ推進計画の策定にあたって

(1) 趣旨

2011（平成 23）年に施行されたスポーツ基本法において、「スポーツは、世界共通の人類の文化である。（中略）スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性などに応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない。」と謳われています。

本市では、2006（平成 18）年に『スポーツ都市宣言』を行い、「スポーツをとおして健康な心とからだをつくり、明るく豊かな松江市をきずく」ことを目指しています。

また、2020（令和 2）年 3 月に、2020（令和 2）年度から 2024（令和 6）年度の 5 年間に計画期間とした「第2期松江市スポーツ推進計画」（以下、「第2期計画」という。）を策定しました。

第2期計画は、「スポーツでつくる“幸せなまち” まつえ～だれもがスポーツを『るるる』で楽しむまちづくり～」を基本理念とし、スポーツ自体の推進にとどまらず、スポーツと健康づくりや観光振興などを結び付け、まちづくりを分野横断的に推進していくことを目指してきました。

しかし、2020（令和 2）年に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は、全国大会の中止にとどまらず、地域や学校におけるスポーツ活動の中止など、スポーツ活動に大きな影響をもたらし、第2期計画の想定どおりに事業を展開できませんでした。

コロナ禍が明けた現在においても、第2期計画に掲げた成果指標の中には、コロナ禍前の水準まで回復していないものも見られます。

一方で、スポーツ活動の再開に伴い、スポーツは日常生活の一部であり、あらゆる人の人生に活力や感動を与えてくれる重要な価値を持つことが改めて認識されたところです。

また、2030（令和 12）年には、島根県において、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（以下、「島根かみあり国スポ・全スポ」という。）が開催されます。そのための市民のスポーツに対する取組の推進や、全国から選手をお迎えできる環境の整備、満足して帰っていただけるような体制づくりをしていく必要があります。

こうした本市におけるスポーツを取り巻く環境と社会情勢の変化を踏まえ、「第3期松江市スポーツ推進計画」を策定します。

本計画では、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」に示している「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」の実現と、「島根かみあり国スポ・全スポに向けた取組の推進」を目指します。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第 10 条に基づく「地方スポーツ推進計画」として、国の「第 3 期スポーツ基本計画」の基本的な考え方や施策の方向性を参酌した、本市のスポーツ推進に関する計画です。

また、本計画は、上位計画である松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」に示している「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」をスポーツを通じて実現する計画として位置づけます。

(3) 計画期間

計画期間は、2025（令和 7）年度～2030（令和 12）年度の 6 年間とします。

次回の改定は、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」〔2022（令和 4）年度～2029（令和 11）年度〕に続く次期総合計画及び 2030（令和 12）年に島根県において開催される「島根かみあり国スポ・全スポ」の成果・実績を踏まえて行うため、本計画の最終年度は 2030（令和 12）年度とします。

(4) 本計画と SDGs の関係

松江市は、SDGs の 17 のゴールと松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」に定める 18 の基本施策を結びつけることで、SDGs の達成とともに、2030（令和 12）年の将来像である「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」の創造を目指しています。

スポーツは、様々な分野で SDGs の達成に寄与する活動であり、本計画においても、スポーツ推進と SDGs を関連づけ、17 のゴールのうち、「3 すべての人に健康と福祉を」「4 質の高い教育をみんなに」「8 働きがいも経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の目標達成に向け取組を推進します。

(5) 進捗管理・見直し

本計画を着実に推進するため、松江市スポーツ推進審議会を年 2 回開催し、取り組み状況を把握し事業を検証・評価するなど、適切な進捗管理を行います。

また、社会情勢の変化に対応するなど、必要に応じて、計画の見直しを行います。

2. 計画策定にあたっての松江市の現状と課題

(1) 第2期松江市スポーツ推進計画の検証

第2期松江市スポーツ推進計画では、基本理念を「スポーツでつくる“幸せなまち” まつえ～だれもがスポーツを『るるる』で楽しむまちづくり～」とし、5つの基本方針を定め、それぞれに成果指標を設けるとともに、16項目の基本施策を定め、事業を実施しました。計画期間は、2020（令和2）年度から2024（令和6）年度までの5年間です。

ここでは、基本方針ごとの成果指標の推移を示し、評価を行いました。

【基本方針1】ライフステージに応じたスポーツ活動の推進		
①成人の週1回以上のスポーツ実施率 (目標値：65%程度)	策定時（2019年）	38.2%
	2020年度	37.8%
	2021年度	41.6%
	2022年度	41.7%
	2023年度	41.3%
	2024年度	42.8%
②卒業後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う中学生の割合 (目標値：80%程度)	策定時（2018年）	65.3%
	2020年度	調査中止
	2021年度	83.2%
	2022年度	82.5%
	2023年度	81.3%
	2024年度	81.3%
③市営スポーツ施設年間利用者数 (目標値：1,300,000人)	策定時（2018年度）	1,220,221人
	2020年度	771,211人
	2021年度	957,839人
	2022年度	1,078,102人
	2023年度	1,177,163人
	2024年度	1,199,588人

「①成人の週1回以上のスポーツ実施率」については、漸増傾向にあるものの、目標値を大きく下回っており、目標未達成となっています。2024（令和6）年度のスポーツ実施率は、世代別でみると20歳代～50歳代が4割未満であり、さらに性別・年代別では、30歳代の女性は【22.3%】と、他の年代に比べ少なくなっています。

「①成人の週1回以上のスポーツ実施率」に関連して、2024（令和6）年度は、スポーツを週1日以上取り組まなかった回答者に対して、取り組まなかった理由を尋ねています。年代別では30歳代～40歳代の6割以上が仕事や家事の忙しさを理由としており、また、30歳

代～40 歳代は他の年代に比べこどもに手がかかることを理由にしている人が多くなっています。性別に見ると、女性は男性に比べて育児の忙しさや運動・スポーツが嫌いなことを理由にしている人が多くなっています。これら理由も考慮に入れながら、引き続きスポーツ実施率を高める取組を進めていく必要があります。

「②卒業後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う中学生の割合」は、国の調査票改定により数値が増加した影響もありますが、目標達成の見込みとなっています。

「③市営スポーツ施設年間利用者数」については、コロナ禍に利用が低迷し、目標値を下回っています。コロナ禍が明け、大会・イベントの開催や団体での利用者により回復しつつあることから、引き続き施設の適正な管理を行うことで、安心して利用できる環境を整備する必要があります。

【基本方針 2】健康づくりを楽しむスポーツの推進		
①健康寿命（65 歳平均自立期間） （目標値：女性 21.66 年、男性 19.06 年）	策定時（2017 年度）	女性 21.05 年 男性 18.00 年
	2020 年度	女性 21.26 年 男性 18.43 年
	2021 年度	女性 21.27 年 男性 18.24 年
	2022 年度	女性 21.59 年 男性 18.47 年
	2023 年度	女性 21.78 年 男性 18.43 年
	2024 年度	女性 21.87 年 男性 18.51 年

「①健康寿命（65 歳平均自立期間）」については、女性の健康寿命は延伸し目標値を超えています。男性はほとんど変わらない状況であり、目標値に到達していません。

【基本方針 3】夢と感動をきっかけとしたスポーツの推進		
①島根スサノオマジック平均観客数 （目標値：4,000 人）	策定時（2018 年度）	2,143 人
	2020 年度	1,270 人
	2021 年度	1,897 人
	2022 年度	3,245 人
	2023 年度	4,219 人
	2024 年度	4,117 人
②松江シティ F C 平均観客数 （目標値：2,000 人） ※ F C 神楽しまねに改称（2022 年 2 月） ※ J F L 退会（2023 年 1 月）	策定時（2019 年）	702 人
	2020 年度	656 人
	2021 年度	500 人
	2022 年度	742 人
	2023 年度	チーム解散

「①島根スサノオマジック平均観客数」については、コロナ禍により減少したものの、チームの好成績に伴い順調に増加し、2023（令和 5）年度に目標を達成しています。今後も引き続きチームと連携しながら観客数増に向けた取組を進めます。

「②松江シティFC平均観客数」については、2022 シーズン後にチームが解散し、目標未達成となりました。

【基本方針 4】スポーツによる地域活性化		
①国宝松江城マラソン参加申込者数 （目標値：5,500 人）	策 定 時（2019 年 度）	5,086 人
	2020 年度	大会中止
	2021 年度	大会中止
	2022 年度	3,013 人
	2023 年度	3,751 人
	2024 年度	4,552 人
②まつえレディースハーフマラソン参加申込者数 （目標値：2,700 人）	策 定 時（2018 年 度）	2,423 人
	2020 年度	大会中止
	2021 年度	大会中止
	2022 年度	1,375 人
	2023 年度	1,662 人
	2024 年度	1,811 人
③松江版地域スポーツコミッション （目標値：設立）	策 定 時（2019 年 度）	未設立
	2020 年度	未設立
	2021 年度	未設立
	2022 年度	未設立
	2023 年度	未設立
	2024 年度	設立

「①国宝松江城マラソン参加申込者数」については、コロナ禍により減少し、目標値を下回っています。コロナ禍後は、徐々に数値が回復している状況であり、今後も引き続き参加申込者数増の取組を進める必要があります。

「②まつえレディースハーフマラソン参加申込者数」については、コロナ禍により減少し、目標値を下回っています。コロナ禍後は、徐々に数値が回復している状況であり、今後も引き続き参加申込者数増の取組を進める必要があります。

「③松江版地域スポーツコミッション」については、2025(令和 7)年 3 月に松江スポーツ

コミッションが設立され、目標を達成しました。

【基本方針 5】 スポーツ活動を「ささえる」環境の整備		
①国宝松江城マラソン・まつえレディースハーフマラソンボランティア協力者数 (目標値：2,000 人)	策 定 時 (2018 年 度)	1,588 人
	2020 年度	大会中止
	2021 年度	大会中止
	2022 年度	1,527 人
	2023 年度	1,417 人
	2024 年度	1,263 人
②スポーツボランティアバンク(指導者・支援者などの登録制度) (目標値：創設)	策定時	未創設
	2020 年度	未創設
	2021 年度	未創設
	2022 年度	未創設
	2023 年度	未創設
	2024 年度	未創設

「①国宝松江城マラソン・まつえレディースハーフマラソンボランティア協力者数」については、目標値を下回っています。一方で、マラソン大会のボランティア数は、運営を効率化することにより、必要数を減らすことが可能と考えており、目標値について検討する必要があると考えます。

「②スポーツボランティアバンク(指導者・支援者などの登録制度)」については、コロナ禍によりその検討が遅れたため、創設できておらず目標未達成となっていますが、2024(令和6)年度に設立された松江スポーツコミッションの事業として、2025(令和7)年度中の創設を検討しているところです。

(2) 市民アンケートから見える現状と課題

2024(令和6)年度に実施した「運動・スポーツの実施状況等に関するアンケート」(市民向けオンラインアンケート)の結果によると、過去1年間に何らかの運動・スポーツを実施した人の割合は【94.3%】で、そのうち、週1日以上運動・スポーツを実施した人の割合は【63.2%】でした(※)。また、この1年間に何らかのスポーツを観戦(テレビやインターネットを含む)した人の割合は【93.8%】、指導・審判や大会・クラブの運営・世話などの「ささえる活動」を行った人は【41.1%】となっており、「する」「みる」「さ

さえる」のいずれか方法で運動・スポーツに参画した人の割合は【99.1%】でした。

(※「松江市まちづくりのための市民アンケート」の調査結果(週1回以上運動やスポーツに取り組んだ人の割合)【42.8% (2024(令和6)年度)】と乖離があるが、調査方法が違うため単純比較はできない。)

実施した運動・スポーツの種目は、「ウォーキング」、「ランニング(ジョギング)・マラソン・駅伝」、「トレーニング」など、個人で取り組める運動・スポーツの割合が高くなっています。観戦したスポーツは、現地観戦では「バスケットボール」が突出して多く、テレビやインターネットでの観戦では「高校野球」が最も多くなっており、島根スサノオマジックや地元ゆかりのある選手・チームの活躍が、市民のスポーツ観戦機会の創出に繋がっていることが読み取れます。

一方、多くの市民がすでにスポーツに関わっているものの、「仕事や家事が忙しいから」「こどもに手がかかるから」といった理由でスポーツに定期的に取り組めていない人もおり、今後、より多くの市民が日常的にスポーツに親しめるようにしていくため、身近な場所で気軽に運動・スポーツに取り組める機会の創出と環境整備が求められています。

(3) 島根かみあり国スポ・全スポへの対応

2030(令和12)年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の島根県開催(以下「島根かみあり国スポ・全スポ」という。)が内々定しており、2025(令和7)年に内定、2027(令和9)年に開催が決定するものと見込まれています。

島根かみあり国スポ・全スポにおいて、松江市は、国民スポーツ大会の正式競技・特別競技のうち12競技、また、全国障害者スポーツ大会の正式競技のうち5競技の開催地となることが予定されており、開催に向けた準備を進めているところです。

国民スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会は、都道府県の代表であるスポーツを「する人」だけでなく、その活躍を「みる人」、そして、その大会をボランティアや競技役員などとして「ささえる人」のすべてにとって、スポーツの素晴らしさを感じることができる場です。

大会開催を一過性のイベントで終わらせるのではなく、今後のスポーツ振興やまちづくりに生かしていけるよう開催準備を進めていく必要があります。

また、全国障害者スポーツ大会に向けて、障がい者の競技スポーツを推進する必要がありますが、現状では競技者・指導者とも少なく、障がい者スポーツ団体と連携して、指導者の育成や競技者を増やす取組を進めていく必要があります。

3. 計画の基本的な考え方

(1) 基本理念

スポーツは、体を動かすことそのものを楽しむということに加えて、健康を増進する、まちへの誇りと愛着を育む、地域内交流や他の地域との交流を活性化する、地域経済を活性化するなど、まちづくりの視点において様々な効果があります。

このような効果を高めることで、スポーツ分野から松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」に示している「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」の実現に寄与していくことを目指して、基本理念を次のとおり定めます。

【基本理念】

スポーツでつくる「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」
～スポーツが松江の存在感を高める～

(2) 基本目標

基本理念である「スポーツでつくる『夢を実現できるまち 誇れるまち 松江』～スポーツが松江の存在感を高める～」を実現するために、次の5項目を基本目標として定めます。

【基本目標】

- ① スポーツによる「ひとづくり」
- ② スポーツによる「つながりづくり」
- ③ スポーツによる「なかまづくり」
- ④ スポーツによる「しごとづくり」
- ⑤ スポーツの「どだいづくり」

これらは、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」が示している「5つの柱」（基本目標）である「しごとづくり」「ひとづくり」「つながりづくり」「どだいづくり」「なかまづくり」と同じであり、本計画は、これら基本目標ごとに基本施策や取組方針、成果指標を定め、スポーツ推進の取組を進めていきます。

(3) 重点施策

2030（令和 12）年開催の島根かみあり国スポ・全スポは大規模なイベントであり、これに向けた取組の推進は、5 項目の基本目標、「ひとづくり」「つながりづくり」「なかまづくり」「しごとづくり」「どだいづくり」のすべての項目にかかわることから、基本目標と別に掲げることとし、重点施策に定めます。

【重点施策】

島根かみあり国スポ・全スポに向けた取組みの推進

(4) 重要成果指標

本計画の重要成果指標として「1 年間にスポーツにかかわった市民の割合」を定め、これが 100%に近づくことを目指します。

「スポーツにかかわる」とは、「する」「みる」「ささえる」のいずれかの方法でスポーツにかかわることと定義します。

これに関連する指標として、「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率」を定め、これが 70%になることを目標とします。

また、重点施策に関連する指標として、「島根かみあり国スポ・全スポにかかわった市民の割合」を定め、これが 100%に近づくことを目指します。

【重要成果指標】

1 年間にスポーツにかかわった市民の割合

※直近 1 年間で、「する」「みる」「ささえる」のいずれかの方法でスポーツにかかわった市民の割合

目標値

100%に近づくことを目指す

① 成人の週 1 回以上のスポーツ実施率

目標値

70%

② 島根かみあり国スポ・全スポにかかわった市民の割合

目標値

100%に近づくことを目指す

(5) 計画のイメージ図

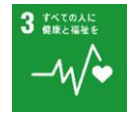
本計画の体系や松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」との関係のイメージは、次の図のとおりです。



4. 計画推進のための取組

基本目標ごとに、基本施策やその取組方針、成果指標を次のとおり定めます。
これらをもとに具体的な取組を実施し、本計画の着実な推進を目指します。

【次ページより 5 項目】



【基本目標】

① スポーツによる「ひとづくり」

●こどもから高齢者まで、競技志向の人も健康志向の人も、全ての人がスポーツに親しむことができるよう、様々なニーズに対応したスポーツの機会を提供します。

【基本施策】

① ライフステージや個性・特性に応じたスポーツの推進	
取組方針	(1)ライフステージに応じたスポーツの推進 こどもから高齢者まで、誰もが生涯にわたってスポーツに取り組めるよう、各年代のライフステージに応じた様々なスポーツの機会を提供します。
	(2)身近な場所で取り組めるスポーツの推進 一人一人のライフスタイルに合わせて、各地域のスポーツ施設など身近な場所でスポーツに取り組める機会を提供します。
	(3)障がい者スポーツの推進 障がい者スポーツの大会や、体験イベントの開催などを通じて、障がい者スポーツの普及を図ります。
② 幅広い志向に応じたスポーツの推進	
取組方針	(1)健康づくりやレクリエーションのためのスポーツの推進 レクリエーションスポーツや、日常生活の中での運動や体操など、気軽に取り組め心身の健康増進に繋がるスポーツを推進します。
	(2)競技スポーツの推進 競技団体に対する活動支援などを通じて、全国大会・国際大会で活躍するトップアスリートを育成します。

【成果指標】

① 成人の週1回以上のスポーツ実施率				
現状値	42.8% (2024年度)	目標値	70%	国(スポーツ基本計画)の目標値と同値
② 卒業後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う中学生の割合				
現状値	81.3% (2024年度)	目標値	90%	国(スポーツ基本計画)の目標値と同値
③ 健康寿命(65歳平均自立期間)				
現状値	女性21.87年、男性18.51年 (2020~2022年平均)	目標値	女性21.60年、男性18.40年	松江市総合計画の指標と同値
④ 全国大会・国際大会出場者数				
現状値	495人 (2024年度)	目標値	500人	

(参考)「MATSUE DREAMS 2030」における関連記述

市民の
実感

子どもから高齢者まで全世代がスポーツを楽しんでいる。

松江の
チャレンジ

全国・世界の舞台へ挑戦するジュニア選手を応援します。

【基本目標】

② スポーツによる「つながりづくり」

- 市民が一体となってスポーツに触れる機会を提供し、市民同士の絆を深め、松江に対する誇りと愛着(シビックプライド)を醸成することで、地域の活性化を図ります。

【基本施策】

① スポーツによる地域内交流の推進	
取組方針	(1)各地域におけるスポーツ活動の活性化
	地域体育協会の活動支援などを通じて市内各地域におけるスポーツイベントの開催を促し、地域内の住民同士の交流を促進します。
	(2)スポーツによる地域間交流の推進
	市民体育祭など参加型のスポーツイベントを通じて、地域を越えた市民同士の交流を推進します。
② スポーツによるシビックプライドの醸成	
取組方針	(1)松江出身のアスリートやスポーツ功労者の顕彰・表彰
	岸清一氏や松江出身のオリンピック、国際大会で活躍した選手の顕彰や表彰を行い、その偉業を市民に周知します。
	(2)プロスポーツ・「みる」スポーツの推進
	島根スサノオマジックの試合や、トップレベルのスポーツ競技大会の開催を支援し、観戦を呼び掛けることで、市民の一体感の醸成を図ります。
	(3)トップアスリートとの交流の推進
	島根スサノオマジックの選手や松江に縁のあるトップアスリートとの交流事業を実施し、市民が選手たちを身近に感じられる機会を創出します。

【成果指標】

① 活発な地域交流に繋がる市民体育祭の開催			
現状値	【毎年開催】 ソフトボール、バレーボール、卓球 【隔年開催】 地区対抗大運動会、ニュースポーツ(グラウンド・ゴルフ、ペタンク)	目標値	(令和8年度までに新たな在り方を検討し、今後設定)
② 島根スサノオマジック平均観客数			
現状値	4,117人 (2024-25シーズン)	目標値	4,500人
			バンダイナムコアリーナ松江 最大収容人数(5,000人)の90%

(参考)「MATSUE DREAMS 2030」における関連記述

市民の
実感

島根スサノオマジックとの交流イベントが活発化。市民みんなが応援団になっている。

松江の
チャレンジ

プロスポーツ選手が市内学校で競技指導に当たるなど、スポーツが身近にあるまちをつくります。

【基本目標】

③ スポーツによる「なかまづくり」

- スポーツ交流事業などを通じて、国内外のまちとの絆を深めます。

【基本施策】

① スポーツによる国内の都市との交流の推進	
取組方針	(1)国内の姉妹都市とのスポーツ交流の推進
	スポーツを通して姉妹都市提携を締結している全国各地の都市との交流を促進します。移り行く時代の中で今後も交流を継続できる基盤の整備を図ります。
	(2)宍道湖・中海・大山圏域の市町とのスポーツ交流の推進
	スポーツを通して圏域の交流を促進し、市民が魅力ある圏域を知る機会を創出します。
② スポーツによる海外の都市との交流の推進	
取組方針	(1)海外の友好都市・交流都市とのスポーツ交流の推進
	スポーツを通して世界各地の友好都市との交流を促進します。スポーツによって、都市間のみならず市民間で国際的な交流が生まれる機会を創出します。

【成果指標】

① スポーツによる国内の交流事業の実施回数				
現状値	4回 (2024年度)	目標値	8回	(市の主催又は名義後援事業)
② スポーツによる国際交流事業の実施回数				
現状値	3回 (2024年度)	目標値	5回	(市の主催又は名義後援事業)

【基本目標】

④ スポーツによる「しごとづくり」

- スポーツコミッションを通じて、スポーツを目的に松江に来る人を増やし、宿泊や観光に伴う消費額を拡大し、地域経済の好循環を生み出します。
- スポーツイベントの開催や市民のスポーツ人口を増やすことで、スポーツに関わる仕事を増やします。

【基本施策】

① スポーツと観光の連携の推進	
取組方針	(1)スポーツ大会の県外参加者と観光を結び付ける取り組み スポーツ大会の参加者や観客に、観光情報を提供したり会場での物販を行うことで、観光産業への誘客を促進します。
	(2)松江ならではの環境を生かしたスポーツと観光を結び付ける取り組み 松江ならではの自然環境や文化を体感できるスポーツアクティビティを活性化することで、観光産業への誘客を促進します。
	(3)スポーツを活用したインバウンド誘致 スポーツツーリズムの取組をインバウンドの拡大に繋がります。
② プロスポーツチームとの連携の推進	
取組方針	(1)観戦者と観光を結びつける取り組み プロスポーツチームと連携し、観戦者に観光情報を提供し、観光産業への誘客を促進します。
	(2)プロスポーツチームとコラボした地元商品の開発・販売・PR プロスポーツチームと地元産品がコラボすることで、地元産品の魅力を向上させ更なるビジネスチャンスに繋がります。
③ スポーツ関連ビジネスの活性化	
取組方針	(1)スポーツイベントの開催に伴う関連産業の活性化 スポーツ大会やスポーツイベントの開催を、会場設営から宿泊まで関連する業界の活性化に繋がります。
	(2)民間スポーツクラブやスポーツ教室等のスポーツに関連するビジネスの活性化 市民のスポーツへの親しみを高めることで、民間スポーツクラブやスポーツ教室等スポーツに関連するビジネスの活性化に繋がります。

【成果指標】

① 国宝松江城マラソン参加申込者数				
現状値	4,552人 (2024年度)	目標値	5,500人	松江市総合計画の指標と同値 (2019年大会の10%増)
② まつえレディースハーフマラソン参加申込者数				
現状値	1,811人 (2024年度)	目標値	2,700人	松江市総合計画の指標と同値 (2019年大会の10%増)
③ スポーツコミッションによる事業成果				
現状値	設立 (2024年度)	目標値	(今後設定)	

(参考)「MATSUE DREAMS 2030」における関連記述

市民の
実感

スポーツを目的に松江に来る人が増えた。

【基本目標】

⑤ スポーツの「どだいづくり」

- スポーツをささえる人や組織の活動を支援します。
- 市民がスポーツに取り組むための環境を整備します。

【基本施策】

① スポーツをささえる人や組織の育成	
取組方針	(1)スポーツを推進するリーダーの育成・活動支援 各競技の指導者や、地域で活動するスポーツ推進委員などの育成と活動支援を行います。
	(2)スポーツを推進する組織の活動支援 松江体育協会や競技団体、各地域体育協会、総合型地域スポーツクラブなど、スポーツをささえている組織・団体の活動支援を行います。
	(3)障がい者スポーツをささえる活動の拡充 障がい者スポーツに関する大会やイベント、チームなどの情報を一元化し、提供できるようにすることで、障がい者スポーツの普及を図ります。
② スポーツ施設の整備と利活用	
取組方針	(1)施設の整備・管理運営 より多くの方が快適で安全・安心に利用できる施設整備や管理運営を行います。
	(2)施設の利活用の促進 誰もが気軽にスポーツに親しめるよう機会の提供と醸成を図ります。

【成果指標】

① 市営スポーツ施設年間利用者数				
現状値	1,199,588人 (2024年度)	目標値	1,300,000人	松江市総合計画の指標と同値 (現状値の10%増)
② スポーツボランティア登録者数				
現状値	登録制度なし (2025年度創設予定)	目標値	1,000人	島根かみあり国スポ・全スポの 想定必要ボランティア数

(参考)「MATSUE DREAMS 2030」における関連記述

市民の
実感

地域ごとにスポーツのコミュニティが組織されている。
自然環境を生かしたサイクリングやジョギングのコースや施設が整備されて気軽に楽しめる。

松江の
チャレンジ

サッカーやグランドゴルフからサイクリングや水上スポーツまで世代を問わずスポーツを楽しめる環境を整備します。

資 料 編

資料編 目次

1.	計画策定経過	19
2.	松江市スポーツ推進審議会条例	20
3.	松江市スポーツ推進審議会委員名簿	21
4.	計画策定にあたり寄せられた主な意見	22
	(1) 松江市スポーツ推進審議会	22
	(2) 松江市教育委員会会議	23
	(3) 関係団体・関係者ヒアリング	23
	(4) 意見募集（パブリックコメント）	25
5.	運動・スポーツの実施状況等に関するアンケート実施結果	26

1. 計画策定経過

時期	内容
令和 6 年 8 月 26 日	令和 6 年度第 5 回松江市教育委員会会議 ・検討状況（策定方針案）報告
8 月 29 日	令和 6 年度第 1 回松江市スポーツ推進審議会 ・第 3 期松江市スポーツ推進計画（案）について（諮問） ・第 3 期松江市スポーツ推進計画（案）の策定について ①策定方針、②体系図（たたき台）、③スケジュール
9 月 25 日 ～10 月 20 日	「運動・スポーツの実施状況等に関するアンケート」実施 回答方法： Web アンケート 回答総数： 435 件
11 月 5 日	令和 6 年度第 2 回松江市スポーツ推進審議会 ・松江市スポーツ推進計画（素案）について
11 月 11 日	庁内関係各課に照会 ・「第 3 期松江市スポーツ推進計画 実施計画」（素案）について（照会）
11 月 19 日	令和 6 年度第 8 回松江市教育委員会会議 ・検討状況（素案）報告
12 月 23 日～ 令和 7 年 1 月 22 日	第 3 期松江市スポーツ推進計画（案）に対する意見募集（パブリックコメント）実施 意見提出者数： 9 名（11 件）
1 月 6 日 ～15 日	関係団体・関係者ヒアリング実施 ヒアリング対象： 4 団体、1 個人
2 月 6 日	令和 6 年度第 3 回松江市スポーツ推進審議会 ・松江市スポーツ推進計画（最終案）について
2 月 18 日	令和 6 年度第 12 回松江市教育委員会会議 ・検討状況（最終案）報告
3 月 10 日	松江市スポーツ推進審議会会長から松江市長に答申 ・第 3 期松江市スポーツ推進計画（案）について（答申）
3 月 10 日	松江市教育委員会に意見照会 ⇒3 月 17 日付で回答（3 月 13 日付教育委員会会議議決）
3 月 26 日	第 3 期松江市スポーツ推進計画策定（市長決裁）

2. 松江市スポーツ推進審議会条例

松江市スポーツ推進審議会条例

平成 17 年 3 月 31 日 松江市条例第 157 号

改正 平成 19 年 6 月 29 日条例第 51 号

平成 23 年 9 月 30 日条例第 86 号

平成 30 年 3 月 22 日条例第 1 号

(設置)

第 1 条 スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 31 条の規定に基づき、松江市にスポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(定数等)

第 2 条 審議会の委員の定数は、13 人以内とする。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 社会体育団体代表者

(2) 経済団体関係者

(3) 学識経験のある者

3 委員は、非常勤とする。

(任期)

第 3 条 審議会の委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 審議会の委員は、再任することができる。

(委任)

第 4 条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、平成 17 年 3 月 31 日から施行する。

附 則（平成 19 年 6 月 29 日松江市条例第 51 号）抄

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

3 この条例による改正前の松江市スポーツ振興審議会条例第 2 条第 2 項の規定により市議会議員のうちから松江市スポーツ振興審議会の委員として委嘱された者は、この条例による改正後の松江市スポーツ振興審議会条例第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、当該委員としての任期が満了するまでの間、引き続き松江市スポーツ振興審議会の委員として在任するものとする。

附 則（平成 23 年 9 月 30 日松江市条例第 86 号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成 30 年 3 月 22 日松江市条例第 1 号）抄

(施行期日)

1 この条例は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

(松江市スポーツ推進審議会条例の一部改正に伴う経過措置)

9 この条例の施行前に附則第 2 項の規定による改正前の松江市スポーツ推進審議会条例第 2 条第 2 項の規定により委員に委嘱された者で、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）に当該委員の任期に残任期間があるものは、施行日に附則第 2 項の規定による改正後の松江市スポーツ推進審議会条例第 2 条第 2 項の規定により委員に委嘱されたものとみなす。この場合における当該委員の任期は、改正後の松江市スポーツ推進審議会条例第 3 条の規定にかかわらず、残任期間とする。

3. 松江市スポーツ推進審議会委員名簿

任期： 令和 6 年 8 月 29 日から令和 8 年 8 月 28 日まで

	氏 名	所 属	備考
1	安部 晶	松江市障害者スポーツ協会 会長	
2	大塚 享義	一般社団法人松江観光協会 常務理事	
3	岸本 行夫	松江市中学校体育連盟 会長	
4	坂元 キワ子	松江市レクリエーション団体連合会 会長	
5	白水 照之	株式会社日本政策投資銀行 松江事務所長	
6	中村 律	株式会社バンダイナムコ島根スサノオマジック 代表取締役 COO	
7	西村 覚	島根大学教育学部 准教授	副会長
8	福田 礼子	松江市スポーツ推進委員協議会 監事	
9	松浦 嘉昭	松江市スポーツ少年団本部 本部長	会長
10	三島 利恵	松江商工会議所 女性会 総務委員長	
11	森山 達也	山陰中央テレビジョン放送株式会社 取締役	
12	山縣 みはる	松江市地域体育協会連合会 理事	
13	湯町 信夫	公益財団法人松江体育協会 専務理事	

(五十音順・敬称略)

4. 計画策定にあたり寄せられた主な意見

(1) 松江市スポーツ推進審議会

委員数：13 名

開催日：(第1回) 令和6年8月29日(木)

(第2回) 令和6年11月5日(火)

(第3回) 令和7年2月6日(木)

計画案諮問：令和6年8月29日(木) [第1回審議会]

答申： 令和7年3月10日(月) [会長・副会長出席]

全般

- ・スポーツ推進計画を通じて、スポーツの素晴らしさを全ての市民の皆さんに知っていただきたい。
- ・第3期計画における新たな取組として、障がい者スポーツの推進、中学校部活動の地域移行、海外とのスポーツ交流の推進などの取組を進めていただきたい。

個別の取組について（主なもの）

- ・こどものためのスポーツ見本市の継続開催や、スポーツの出前講座・巡回指導など、こどもたちがスポーツを体験できる機会をもっと増やすことが大切。
- ・宍道湖岸でのジョギングやレガッタなど、水の都「松江」ならではのスポーツ環境を市内外にPRし、市民が身近な場所で取り組めるスポーツを推進するとともに、観光誘客（国内、インバウンド）にも取り組んでいただきたい。
- ・ウォーキングやジョギングのコースの距離表示や、小さなバスケットコートを整備など、一人や二人でも気軽にスポーツを楽しめる環境整備に取り組んでいただきたい。

計画の実現にむけて

- ・計画を実践するためには財源が必要。
- ・スポーツ振興基金を活用し、スポーツ振興にむけた取組みを加速させてもらいたい。
- ・ネーミングライツなどによる財源確保も必要。施設の機能や役割、それに見合った金額や、スポンサーのイメージも含めて、適切な在り方を検討していただきたい。
- ・引き続きスポーツ推進審議会では、市全体のスポーツ振興のために、スポーツ推進計画の進捗管理や見直しなども含めて積極的に関わっていききたい。

(2) 松江市教育委員会会議

委員数：5名

事前説明：令和6年8月26日(月)（第5回会議）、
令和6年11月19日(火)（第8回会議）、
令和7年2月18日(火)（第12回会議）

意見照会：令和7年3月10日(月)

回答：令和7年3月17日(月)

意見照会に対する回答

松江市スポーツ推進計画（案）については、異議なし。

具体には、以下のような意見あり。

- ・中学校の部活動移行については、地域との連携が大切である。中学校との連携をしっかりと図っていただきたい。
- ・指導者の育成にさらに力を入れていただきたい。

(3) 関係団体・関係者ヒアリング

実施対象：4分野（4団体、1個人）

ヒアリング先：1. NPO 法人 SPORTIVO ひがしいずも（総合型地域スポーツクラブ）
2. 有限会社 Plus value（イベント企画運営会社）
3. 木村崇男氏（フリーランススポーツインストラクター）
4. 幼保園のぎ／たまちこども園（幼稚園・保育所・認定こども園）

実施期間：令和7年1月6日(月)～1月15日(水)

主な意見

- ・こどもはスポーツに楽しみ志向を持つ傾向にある一方で、保護者は競技志向でこどもにスポーツをさせていることが多く、楽しみ志向と競技志向でスポーツに対する考え方の二極化が進んでいる。
- ・屋根付きの屋外広場を作ると天候に左右されず、幅広い年代の市民が様々なスポーツを行うことができ、スポーツの推進につながるだろう。
- ・少人数・小規模で大会をシリーズ化するなどして大会の頻度を増やして、競技というよりはロケーション重視の生涯スポーツユーザーを引き込めるような大会を主催していきたい。
- ・スポーツへの参加の仕方も、アプリなどの登場で非常に多様化してきているため、時代の流れに合わせた工夫を施した大会にすることが重要である。

- ・松江の強みの一つとして宍道湖や中海、大橋川、境水道などの絶好のロケーションがあげられるので、県外の参加者を誘致することにあたっては、ロケーションを生かした大会づくりが重要である。(トレイルランニングやトライアスロンなど)
- ・コロナ禍を経てサイクリング大会の参加者が大幅に減少した一方で、マラソンの参加者はコロナ禍前に戻りつつある。原因としては、バイクの高騰によって新たな若者の参入者が少ないため、サイクリング大会の参加者は伸びないのではないかと。それに対してマラソンは、準備物が少なく、敷居が低いことから人数がコロナ禍前に戻りつつあるのではないかと。
- ・フィットネスクラブは高齢者の利用が多く、社交の場となっている一方で、スポーツジムは若者の利用が多く、トレーニングをすることを目的にジムを利用している。
- ・フィットネスクラブはコロナ禍により利用者が半分程度になり、いまだ回復してなく、利用者回復のためにはスポーツの楽しさを打ち出すことが必要である。
- ・インストラクターとして教室に参加してもらえれば楽しいと思ってもらえる自信がある。楽しいと思ってもらえれば継続してもらおうこともできるだろうから、まずは場所の用意と告知をしていただきたい。
- ・最近の未就学児の傾向として、転びやすい、走りが不安定、体幹が弱い、投げる力が弱い、ひねる・握る等の動きがぎこちないなど感じており、日常生活で雑巾がけや水道の蛇口の使用、トイレのためにしゃがむといった動作の経験が少なくなったことが原因ではないかと。園の生活の中で経験できるようにあえてひねる蛇口を設けている。
- ・幼保園、こども園では、楽しく体を動かすことを目的として、かけっこやボール遊び、ダンス、まっえっこ体操など日常生活の中で体を使った遊びの時間を設け、十分に体を動かす活動を行っている。
- ・幼保園、こども園において、外部講師によるスポーツ体験・指導があるとよい。活動中のこどものけがについては、園側で保険をかけているため、外部講師には気兼ねなく指導していただけるのではないかとと思う。
- ・親がやっていたスポーツをこどもにもやらせる傾向があり、午睡の時間を利用して4・5歳児の希望者には、習い事に参加する機会を設けている。また、園とは別に、体操やダンス、サッカー、バスケットボールなどの習い事に通っているこどももいる。

(4) 意見募集（パブリックコメント）

募集期間	令和 6 年 12 月 23 日(月)～令和 7 年 1 月 22 日(水)
資料公開場所	市ホームページ、本庁行政資料コーナー、支所地域振興課
意見提出者	9 名 (11 件)

各意見の概要

- 計画案に取り入れたもの . . . 無し
- 今後の取組の参考とするもの . . . 11 件
 - ・スポーツ実施者増加のため、市内のスポーツ施設利用料金を期間限定で割引するべき。
 - ・「健康寿命」は、スポーツによる影響かどうか計れないので、成果指標として適切ではないように思う。
 - ・ゴールデンエイジへのスポーツ指導にも力を入れてほしい。指導者のボランティア精神に依存する体制からの改善をしなければならない。
 - ・中学校部活動地域移行については、各競技団体などと協力して、トラブルが発生しないように進めていただきたい。
 - ・スポーツを行うには、医学的な学びも必要である。こどもだけでなく、親や年配の方々も学ぶことができるいつまでも動ける体づくり、けが防止等についてのイベントや教室を開催してほしい。
 - ・地域体育協会の役員は、若手が少なく高齢化している。他の地区での取組の成功事例等を、発表・意見交換する機会を作してほしい。
 - ・指導者の高齢化が顕著である。組織の若返りは喫緊の課題である。
 - ・市民体育祭（ソフトボール、バレーボール、卓球、ニュースポーツ、地区対抗大運動会）は、以前から同じ競技種目、かつ競技人口が減っているものが多いこともあり、参加地区および参加者が減少している。ソフトボール、バレーボール、卓球、ニュースポーツ（グランゴルフ等）は、競技別の大会が市内や近隣地域で開催されており、あえて実施する意義を感じない。実施種目は、時代に即したものを採用すべきであり、多くの方が参加できるように参加条件を低くすることも必要。
 - ・スポーツをするにはお金がかかり、ボランティアによる指導・育成からビジネスとしての指導・育成の時代が変わってきている。資格取得のための補助金やイベント開催のための補助金、ビジネスとして成立するための補助金を要望する。
 - ・(特定の体育館の)床のたわみを修繕してほしい。和式トイレを洋式トイレに改修してほしい。
 - ・急にスポーツをしたくなったときに使える学校や体育館があると良い。

5. 運動・スポーツの実施状況等に関するアンケート実施結果

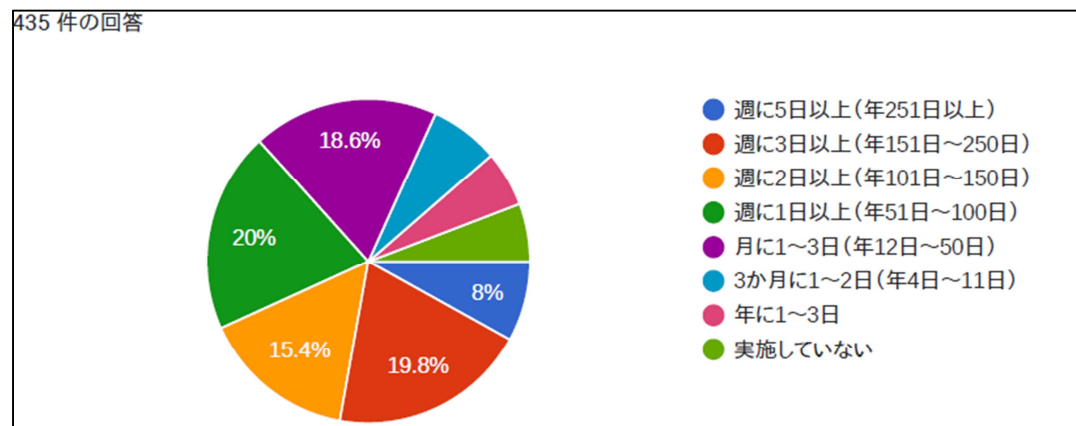
実施期間： 令和6年9月25日(水)～10月20日(日)

依頼方法： 市ホームページ及び SNS による周知

回答方法： Web アンケートフォーム (Google フォーム)

回答総数： 435 件

過去1年間の運動やスポーツの実施率



年に1日以上、運動やスポーツを実施した人の割合 = 【94.3%】

週に1日以上、運動やスポーツを実施した人の割合 = 【63.2%】

回答詳細

- 過去1年間に実施した運動やスポーツの種類 (複数回答、上位5項目)
 - (1)ウォーキング (散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む) 【57.7%】
 - (2)ランニング (ジョギング)・マラソン・駅伝 【22.4%】
 - (3)トレーニング (筋力トレーニング・トレッドミル (ランニングマシン)・エアロバイク・室内運動器具を使ってする運動等) 【21.5%】
 - (4)体操 (ラジオ体操・職場体操・美容体操等) 【18.5%】
 - (5)バレーボール・ビーチバレー・ソフトバレーボール 【16.2%】

※ 実施していない 【5.7%】
- 過去1年間に運動・スポーツを週1日以上実施出来なかった理由 (複数回答、上位5項目) (有効回答 159 件)
 - (1)仕事や家事が忙しいから 【68.6%】
 - (2)こどもに手がかかるから 【27.7%】
 - (3)面倒くさいから 【25.8%】
 - (4)施設や場所がないから 【10.7%】
 - (5)特に理由はない 【9.4%】
- 過去1年間に運動・スポーツを週1日以上実施した理由 (複数回答、上位5項目) (有効回答 275 件)
 - (1)健康のため 【73.5%】
 - (2)楽しみ、気晴らしとして 【59.6%】
 - (3)体力増進・維持のため 【56.0%】
 - (4)筋力増進・維持のため 【39.6%】
 - (5)友人・仲間との交流として 【34.2%】

●過去1年間に運動やスポーツを実施した場所（複数回答、上位5項目）

- (1)公共体育・スポーツ施設【49.9%】
- (2)道路【35.2%】
- (3)自宅または自宅敷地内【32.9%】
- (4)学校体育施設【28.4%】
- (5)公園【25.8%】

●過去1年間に観戦したスポーツ（複数回答、上位5項目）

○直接現地で

- (1)バスケットボール【23.9%】
- (2)プロ野球（NPB、メジャーリーグ）【8.0%】
- (3)高校野球【6.4%】
- (4)その他野球・ソフトボール【4.8%】
- (4)バレーボール【4.8%】

○テレビやインターネットで（複数回答、上位5項目）

- (1)高校野球【67.8%】
- (2)プロ野球【52.2%】
- (3)バレーボール【43.8%】
- (4)サッカー日本代表【42.1%】
- (5)バスケットボール【39.3%】

※ 現地でもテレビやインターネットでも観戦していない【6.2%】

●過去1年間に行った「運動・スポーツをささえる活動」（複数回答、上位5項目）

- (1)自身や子どもが所属するスポーツ団体やクラブでの補助的な活動【18.5%】
 - (2)運動・スポーツの指導【12.6%】
 - (3)スポーツクラブ・団体の運営や世話【12.1%】
 - (4)スポーツの審判【9.6%】
 - (5)スポーツ団体・選手への寄付・クラウドファンディング等への参加【3.7%】
- ※ 行っていない【58.9%】

●過去1年間にする・みる・ささえる いずれも「していない」
4件【0.9%】（有効回答数 435 件）

●自由記述（主なもの）

- ・気軽に運動ができる機会や場所をたくさん作ってほしい。
- ・地域で気軽に参加できるスポーツの情報、環境がほしい。
- ・特定の競技だけでなく幅広く様々なスポーツを支援してほしい。
- ・島根スサノオマジックへの支援や連携をさらに進めてほしい。
- ・屋外のバスケットコートを増やしてほしい。
- ・スポーツ施設の使用料を安くしてほしい。安価に使える施設がほしい。
- ・スポーツ施設の管理を充実させてほしい（熱中症対策、修繕など）。
- ・こどもの送迎を支援してほしい。

第3期松江市スポーツ推進計画

発行日 2025(令和7)年3月

発行 松江市

編集 松江市文化スポーツ部スポーツ課
島根県松江市末次町86番地
電話 0852-55-5296

(最終改定 2026(令和8)年9月)